

市長総括説明から

3月2日、平成24年第1回市議会定例会が開会しました。今冬の豪雪について報告し、所信を述べ、提出議案を説明しましたので、その概要をお知らせします。

○所信

「小さな世界都市・豊岡」の実現に向けて、より果敢に、大胆に挑戦します。

7月のラムサール条約第11回締約国会議(COPL11)で、円山川下流部とその周辺水田の登録を目指します。

また、豊岡を担う子どもたちの育成に努め、「いのちへの共感」が生まれる行政を進め、合併特例期間中に財政の体力強化を図ります。

■安全に安心して

喜らせるまち

円山川緊急治水対策事業の促進を図り、稲葉川土地区画整理や山田川河川改良、向鶴岡川等の浚渫、市街地北部内水路改良を行います。

防災行政無線統合操作システムや土砂災害危険度判定システム、新庁舎災害対策本部用防災システムの構築に着手します。住宅耐震改修を促進し、津波避難対策や地域防災力向上に取り組みます。防災公園整備は、旧宗教法人用地の工事を行い、日高地域市街地の県有地の方は、取得後、工事着手します。

新たに、中学3年生までの入院医療費自己負担の無料化や小児救急電話相談開設、「(仮称)障害者虐待防止センター」を設置します。高齢者や障害者の生活支援や認知症対策、介護サービスを進めます。

■人と自然が共生するまち
コウノトリ生息地保全対策事業を進め、生物多様性地域戦略も策定します。ペレットストーブ・ボイラー設置等のバイオマスタウン事業、太陽光発電システム導入補助、メガソーラー発電所整備で、循環型まちづくりを進めます。

■持続可能な「力」を高めるまち
アンテナショップ、フェイ

スブック、ジオツアーや首都圏からのツアーバス補助で情報発信・誘客を図ります。農業は、「豊岡市農業振興戦略」で強化を図ります。有機JAS取得補助も行います。漁業資源保護活用事業や商店街活性化事業を行い、起業サポート奨励金制度や環境経済型事業認定・支援制度を新設します。

北近畿豊岡自動車道の地籍調査を進め、山陰本線・播但線高速化に取り組み、バス停留所整備補助制度を創ります。また、景観計画を策定し、景観条例と屋外広告物条例を制定、コミュニティFMの聴取エリア拡大を支援します。

■未来を拓く人を育むまち
子育て支援および少子化対策を進め、こども園整備、校庭の芝生化、学校給食センター施設整備などを行います。学校の健診は市内全域の内容の統一と充実を図ります。

■人生を楽しむ
お互いを支え合うまち
夢と自然の大切さを伝えるため、南極昭和基地との交信授業や基地ライブ映像の放映などを行います。

旧中和家住宅の国登録文化財に向けての調査、国史跡指定但馬国分寺跡活用のための用地取得等を行います。出石永楽館の大歌舞伎公演や小規模集落活性化事業、過疎地域戦略プロジェクト、地域力再生事業を継続します。

■市政の運営

豊岡地域では、ジオパークの拠点づくりやコウノトリ野生復帰などの取組みを国内外に情報発信するとともに、現本庁舎や南庁舎、市庁舎前市民広場を一体的に活用するプラン作成を行います。城崎地域では、外国版旅館予約システムの整備、無電柱化の工事を進め、地域全体を英語で紹介するインフォメーションセンター設置などを実施します。

竹野地域では、参加体験型・滞在型観光を進め、ジオコンシェルジュ育成やプロモーション映像の制作などを行い、「竹野浜オープンウォータースイミング大会」などを支援します。

日高地域では、神鍋高原に各種スポーツ大会や合宿、高校修学旅行を誘致し、スポー

ツのメッカ・観光スポットとして振興を図り、かんなべ湯の森「ゆとろぎ」の実施設計を行います。出石地域では、出石永楽館や伊藤清永美術館を活用して文化の向上と地域の活性化を図り、伝統的建造物群保存地区保存事業を進め、武家長屋資料館を保全し、コミュニティ施設として利用します。

但東地域では、但東花公園を中心に、農家民宿、チューリップまつり、グリーンツーリズムなどにより、交流人の増加を図り、集落対策事業や東井教育の普及を進めます。

《主要項目》

○東日本大震災関連の新法

制定に伴う市税条例改正

東日本大震災を受けて、防災・減災対策の財源を確保するため、地方税法の特例が規定されました。そこで、平成26～35年度まで、個人市民税標準税率規定額に500円加算する条例改正を提出しています。

○兵庫県蚕業技術センター

跡地取得

市が貸与している養護老人ホームことぶき苑用地と等価

交換し、同センター跡地を取得します。

○**消防救急デジタル無線整備**
消防救急無線デジタル方式への移行義務化に伴い、無線基地局等デジタル化のための調査と基本設計を行います。

○**消防団の体制**
1団制を目指していましたが、改めて多団制と比較し、消防団のあり方を決めます。

○**暴力団対策基金条例制定**

暴力団排除の市の姿勢を示し、市民意識の高揚を図るため、基金条例と基金予算を提出しています。

○**歩いて暮らすまちづくり**

条例制定

地域活性化総合特区「健康長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」の指定を受け、健康の視点を取り入れたまちづくりをさらに推進するため、条例を提出しています。構想案も策定します。

○**周産期医療体制整備**

近い将来、分娩施設は豊岡病院と八鹿病院とし、周産期医療センターを平成27年度に豊岡病院に整備することを目指しています。

○**高橋診療所の運営**

指定管理者「但東の健康と医療を守る会」からの移管申し出を受け、4月から市が同診療所を運営します。

○**地域福祉計画等の見直し**

地域福祉計画、障害者福祉計画、老人福祉計画・第5期介護保険事業計画を見直しました。介護保険事業保険料改定の条例改正を提出しています。

○**障害者虐待防止センター設置、障害者相談支援体制強化**

法で義務付けられた同センターを設置し、障害者相談支援の拡充を図ります。

○**コウノトリ野生復帰を**

めぐる取組み

兵庫県立大学が平成26年度に大学院をコウノトリの郷公園に開設すると発表しました。円山川下流域のラムサール条約湿地登録のための国指定鳥獣保護区設定は、公聴会が終わり、今後、国の審議会で承認される見込みです。

○**北但ごみ処理施設整備事業**

2月に進入道路・敷地造成工事の安全祈願祭が行われ、新施設工事が進みます。

○**豊岡版エコハウスの**

モデルプラン

豊岡の気候風土に合ったエコハウス普及のためのプランを策定しました。

○**豊岡版エコポイント**

「豊岡エコバレー」の実現に向けて、エコポイント制度を導入し、市民、事業者の環境活動を促進します。

○**メガソーラー発電所整備**

全規模1メガワットの発電所を高町山宮に整備し、再生可能エネルギーの地産地消とエネルギー利用の多様化を進めます。まず、0・68メガワットの設置を行います。

○**豊岡市農業振興戦略策定**

戦略は最終調整中です。コウノトリ育む農法を柱とした環境創造型農業で本市農業を劇的に変えようとするものです。

○**城崎大会議館の県からの移譲と城崎アートセンター化**

同館の宿泊施設は廃止となりますが、市が全館の移譲を受けます。この施設を活用する「城崎温泉アートセンター化構想」を策定します。

○**但馬空港周辺用地**

空港周辺用地を市土地開発公社から買い戻し、「空港周辺ふれあいの森構想」に基づき、

測量・設計を行います。

○**コウノトリ但馬空港の利用**

昨年10月のダイヤ変更により利用率が落ち込んでいますが、利用促進に努めます。

○**中心市街地活性化事業**

リーディングプロジェクトの一つ「かばんを生かしたまちづくり事業」宵田商店街（カバンストリート）空き店舗活用事業の具体化に向けて、協議・検討をしています。

○**豊岡駅前広場の供用開始**

平成20年度から取り組んできましたが、3月17日に供用を開始します。

○**バス交通対策**

神鍋線「上限200円バス」社会実験は利用目標に達していませんが、地域主体の公共交通「チクタク」は好調です。

○**魅力ある景観形成の取組み**

景観法に基づく景観計画策定や景観条例制定を6月議会に向けて進めます。

○**定住促進**

但東町中山の特定公共賃貸住宅をUJイターン希望者の賃貸住宅として活用します。

○**西気小学校と清滝小学校の統合検討**

統合する要望書が区などから出され、市は統合準備委員会を立ち上げます。

○**「小さな世界都市」豊岡を担う子どもを地域で育てる**
これまでの小・中学生中心から、高校生までを視野に入れた独自の取組みに拡大し、3年計画で進めます。

○**豊岡市債権管理条例の検討**
本市には債権管理に関する統一的なルールがなく、滞納対応に相違が生じているため、条例を検討しています。

○**新庁舎建設事業**
2月、現本庁舎を曳家（ひきや）しました。今後、現本庁舎には免震装置を設置し、現本庁舎跡地では、新庁舎建設のための地盤改良工事を行います。

○**定住自立圏構想の推進**
定住自立圏構想の圏域形成協定は、6月議会に向けて締結協議を進めます。

○**組織の見直し**
政策調整部エコバレー推進室は「地域戦略推進課」に変更します。総務部総務課は、管財係を「行政係」に統合し、企業部は「上下水道部」に名称変更し、現3課を水道課と下水道課の2課体制とします。